

国立民族学博物館研究報告 vol22-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	22
号	3
発行年	1998-02-20
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009181

1997—22_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告



古典ユカテクマヤ語の逆受動についての一考察———八杉佳穂

北タイ農村における「仕事」概念の一考察

——相互行為と社会関係———平井京之介

閩南農村における神々信仰

——福建省晋江市農村での実地調査に基づいて———聶 莉莉

Apuntes sobre el Pluralismo Religioso y los Protestantes en la Sierra Mixe y
la Ciudad de Oaxaca———Etsuko Kuroda



国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL.06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

22 卷 3 号

1997 年

目 次

古典ユカテクマヤ語の逆受動についての一考察	八杉佳穂	491
北タイ農村における「仕事」概念の一考察 ——相互行為と社会関係——	平井京之介	527
閩南農村における神々信仰 ——福建省晋江市農村での実地調査に基づいて——	轟 莉莉	585
Apuntes sobre el Pluralismo Religioso y los Protestantes en la Sierra Mixe y la Ciudad de Oaxaca	Etsuko Kuroda	661
彙 報		677
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		680
国立民族学博物館研究報告執筆要領		681

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 22 No. 3

1997

- YASUGI, Yoshiho On Focus Antipassive Constructions in Classical
Yucatec Maya 491
- HIRAI, Kyonosuke An Anthropological Study of "Work" in a Northern
Thai Village: Interactions and Social Relations 527
- NIE, Lili Belief in Gods and Demons in the Southern Part of
Fujian Province: Field Data from a Country Town... 585
- KURODA, Etsuko Apuntes sobre el Pluralismo Religioso y los Pro-
testantes en la Sierra Mixe y la Ciudad de Oaxaca... 661

彙 報

(平成9年7月～
平成9年9月)

人事異動

(教育職)

(採用)

7月1日 第一研究部助手 山本 匡
地域研究企画交流センター助手
篠原 拓嗣

(昇任)

7月1日 第二研究部教授 八杉 佳穂
(第四研究部助教授)
第五研究部助教授 園田 直子
(第五研究部助手)

(外国人客員研究部門)

7月16日 第五研究部助教授

SMITH, Wendy Anne

(オーストラリア, モナシュ大
学日本研究科上級講師)

〈任期9. 7.16～10. 1.31〉

(任期満了)

9月30日 第五研究部助教授

ABHAKORN, M. R. Rujaya

(タイ王国, チェンマイ大学人
文学部歴史学科講師)

〈任期9. 4. 1～9. 9.30〉

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
山田 陸男	教授(地域研)	9. 7. 1	9. 8. 9	ブラジル, アルゼンチン, スペイン, ポルトガル, イタリア, ベルギー
新免光比呂	助手(第三研究部)	9. 7. 1	9.10. 1	ハンガリー, ルーマニア
野村 雅一	教授(第三研究部)	9. 7. 2	9. 9.27	イギリス, イタリア, ギリシャ
庄司 博史	助教授(第三研究部)	9. 7. 3	9. 8. 4	ロシア, エストニア, フィンランド
笹原 亮二	助手(第一研究部)	9. 7. 3	9. 7.27	オランダ
森田 恒之	教授(第五研究部)	9. 7. 6	9. 7.13	モンゴル
池谷 和信	助手(第一研究部)	9. 7.10	9. 7.18	南アフリカ
齋藤 晃	助手(第四研究部)	9. 7.12	9.10.13	ボリビア
平井京之介	助手(第一研究部)	9. 7.13	9. 7.22	マレーシア, シンガポール
藤井 龍彦	教授(第五研究部)	9. 7.14	9.10. 1	ペルー
崎山 理	教授(第五研究部)	9. 7.18	9. 8. 9	ベトナム, 中華人民共和国
和田 正平	教授(第三研究部)	9. 7.19	9. 8.16	タンザニア
久保 正敏	助教授(第五研究部)	9. 7.19	9. 8.10	オーストラリア
立川 武藏	教授(第二研究部)	9. 7.20	9. 8.17	インド, ネパール
小山 修三	教授(第四研究部)	9. 7.21	9. 7.28	オーストラリア
江口 一久	教授(第三研究部)	9. 7.22	9. 8.19	カナダ, ブラジル
松原 正毅	教授(地域研)	9. 7.23	9. 7.26	モンゴル
杉本 良男	助教授(第三研究部)	9. 7.24	9. 9. 3	インド
田邊 繁治	教授(第二研究部)	9. 7.25	9. 9.14	ラオス, タイ
佐々木史郎	助教授(第四研究部)	9. 7.27	9. 8.14	ロシア
大塚 和義	教授(第一研究部)	9. 7.28	9. 8.18	ロシア
長野 泰彦	教授(第一研究部)	9. 7.30	9. 8. 8	インド
塚田 誠之	助教授(第二研究部)	9. 8. 4	9. 8.25	中華人民共和国
松原 正毅	教授(地域研)	9. 8. 6	9. 8.30	ロシア, モンゴル

小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	9. 8. 6	9. 8.30	ロシア, モンゴル
寺田 吉孝	助手 (第二研究部)	9. 8.16	9. 8.30	ベトナム, ラオス
長野 泰彦	教授 (第一研究部)	9. 8.19	9. 9. 7	中華人民共和国, ネパール, インド
秋道 智彌	教授 (第一研究部)	9. 8.24	9. 8.31	フィリピン
大森 康宏	教授 (第五研究部)	9. 8.25	9. 9. 4	アメリカ合衆国
ピーター・ジョゼフ・マンウス	助手 (第四研究部)	9. 8.25	9. 9.16	ニュージーランド
熊倉 功夫	教授 (第一研究部)	9. 8.26	9. 9. 3	ハンガリー, チェコ
帯谷 知可	助手 (地域研)	9. 8.26	9. 9.17	ウズベキスタン, ロシア, カザフスタン
佐藤 浩司	助手 (第四研究部)	9. 8.28	9. 9.25	ベトナム
柄木田明子	助手 (第三研究部)	9. 8.29	9. 9.14	オーストリア
西尾 哲夫	助教授 (第二研究部)	9. 9. 1	9.10. 3	エジプト, イスラエル, イギリス
重松真由美	助手 (第一研究部)	9. 9. 1	10. 2.28	大韓民国
池谷 和信	助手 (第一研究部)	9. 9. 5	9.10. 5	南アフリカ, ボツワナ, ナミビア
野林 厚志	助手 (第三研究部)	9. 9. 9	9.10.15	中華人民共和国
佐々木史郎	助教授 (第四研究部)	9. 9.15	9. 9.29	ロシア
小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	9. 9.16	9. 9.19	中華人民共和国
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	9. 9.16	9.10.15	中華人民共和国
塚田 誠之	助教授 (第二研究部)	9. 9.16	9. 9.19	中華人民共和国
中牧 弘允	教授 (第一研究部)	9. 9.17	9. 9.24	シンガポール, マレーシア
田村 克己	助教授 (第五研究部)	9. 9.17	9. 9.28	中華人民共和国
黒田 悦子	教授 (第四研究部)	9. 9.22	9.10.21	メキシコ, アメリカ合衆国
大森 康宏	教授 (第五研究部)	9. 9.23	9.10.23	ギリシャ, イタリア, フランス, ドイツ, イギリス
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	9. 9.23	9. 9.28	大韓民国

来館者抄

7月1日	沢田 敏男 ((財) 国際高等研究所長)	8月5日	五十嵐耕一 ((財) 日本博物館協会専務理事)
7月15日	LUNDBAEK, Torben (デンマーク国立博物館長)	8月8日	COBBI, Jane (フランス, 国立科学研究所主任研究員)
7月29日	浙江大学外事弁公室一行 (中華人民共和国)	8月25日	BIESELE, Megan (アメリカ合衆国, 文化人類学者), FEIT, Harvey A. (カナダ, マクマスター大学人類学部教授), PETERSON, Nicolas (オーストラリア国立大学考古学・人類学部教授)
8月1日	及川 雅勝 (文部省学術国際局研究機関課研究調整官), 三浦和幸 (文部省学術国際局研究機関課専門職員)	8月27日	岸本 忠三 (大阪大学長)

彙 報

- 8月29日 文化政策研修団一行(大韓民国)
- 9月5日 鄭 然 寬 (大韓民国, 国立中央博物館涉外教育課行政事務官)
- 9月8日 鄭 大 聲 (滋賀県立大学教授), 李 鐘 美 (大韓民国, 梨花女子大学校教授)
- 9月10日 周 永 河 (中華人民共和国, 中央民族大学博士研究生)
- 9月11日 佐原 眞 (国立歴史民俗博物館長), 白石太一郎 (国立歴史民俗博物館副館長)
- 9月16日 SALLEH, Muhammad Haji (マレーシア, マレーシア国民大学文明地理研究所長)
- 9月18日 VIATTE, Germain (フランス, 国立近代美術館前館長)
- 9月20日 マレーシア国立博物館一行
- 9月22日 MACK, John (イギリス, 大英博物館民族誌部門キーパー), BARLEY, Nigel (イギリス, 大英博物館民族誌部門アシスタントキーパー), CLARK, Timothy (イギリス, 大英博物館日本部門アシスタントキーパー)
- 9月26日 栄久庵憲司 (道具学会会長), 山口 昌伴 (道具学会理事)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という）の教官（客員教授等を含む）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565-8511 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 22卷3号

〔監 修〕

石 毛 直 道

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

江 口 一 久

清 水 昭 俊

杉 本 良 男

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

平成10年2月20日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 22卷3号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565-8511 吹田市千里万博公園 10-1

TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602-0924 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.22 no.3
1997

YASUGI, Yoshiho

**On Focus Antipassive Constructions in Classical
Yucatec Maya**

HIRAI, Kyonosuke

**An Anthropological Study of "Work" in a North-
ern Thai Village: Interactions and Social Rela-
tions**

NIE, Lili

**Belief in Gods and Demons in the Southern Part
of Fujian Province: Field Data from a Country
Town**

KURODA, Etsuko

**Apuntes sobre el Pluralismo Religioso y los
Protestantes en la Sierra Mixe y la Ciudad de
Oaxaca**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X